



李景科・張雪萍・林琳・Gilles Flutsch・于強

「中国東北的葬甲科研究」

哈尔滨地图出版社 ISBN 978-7-5465-0510-7

2011年9月第1版発行 定価28.00元 略A5版

並製本 118 pp.

Li Jingke, Zhang Xueping, Lin Lin, Gilles
Flutsch, Yu Giang

The Family Silphidae of Northeast China
Harbin Map Publishing House, China

中国東北地方のシテムシの分類と分布に関する書籍が、上記のように李景科氏らによって上梓された。本書が対象としている地域は、遼寧省、吉林省、黒龍江省の三省で、内モンゴル自治区は含まれていない。これら三省は概ね亜寒帯気候に属し、地理的には、南部で大興安嶺と長白山脈のほぼ南北方向に連なる二列の山脈に挟まれる平原地帯が、北部では小興安嶺に遮られ長白山脈北端部との間を通過しハバロフスク付近の湿地帯にまで達する、渤海北東部沿岸から黒龍江（アムール河）に至る広大な地域である。この地域はマンチュウリアと呼ばれる地域の大部分を占めるが、以前から生物地理学的に日本と関係があるとされ（植物分布における鮮満要素）、また現代史的にも然りであることは改めて言うまでもない。しかしながら、いわゆる満州国が存在した時期（1932-45）の日本人昆虫研究者の関心は主に南方に向いており、北方に関してはサハリン・クリル列島か大興安嶺本体に向けられていたためか、この地域の甲虫の分類・分布学的業績はことシテムシに関する限り多いものではない（森・趙（1938）による目録があるが、全体を俯瞰するには不十分なものである）。一方、中華人民共和国の建国に発し改革開放路線の定着までの間には、極めてわずかな知見があるにすぎない（例えば、Mazochin-Porshnjakov（1953））。そのように、この地域の、とりわけ平原地帯のシテムシ相は予想はできても十分に把握できないまま残されていたのである。

本書は、前言に始まり、国外における研究の現状、国内研究の現状、中国東北地方における研究、生物学的特徴、土壤動物としてのシテムシ科、外部形態、主要分類特徴、採集記録、分類までの9章及び謝辞、参考文献で構成され、採集記録の章には、産地別に種名と採集データが示され（23

産地）、分類の章では29種について、種名と中国名の下にシノニミー、記載、分布が記述され、三省内の記録地点を示した地図とかなり鮮明なカラー写真がそれぞれに付されている。また、未採集ながら記録があるととして4種が掲げられ内2種が図示されている。以下、日本にも分布する種について分類と分布に関する問題点を掲げるが、関連する事柄についても必要上言及したものがあ

1) 「中国新記録のヒメモンシテムシ」について

ヒメモンシテムシは日本特産種として知られ、四国の高地帯、本州の両白山地以北及び佐渡島から分布が確認されている小形のモンシテムシである。本書の61頁に、中国新記録の但書とともに記載と写真（図30）、採集記録1例が掲載されている。しかし、この図30に示された種はどう見てもヒメモンシテムシではない。他に本書に掲載されている標本写真にもヒメモンシテムシと判定できるものはないし、採集例は1例であることから、図示されたものが採集された個体だとすれば、この記録は誤同定に基づくと看做してよいと思われる。

本書では、掲載された写真から判定される種とそれに充てられた種名が一致しない例が極めて多い。このことは単に本書制作上の過誤に留まらず、種の同定、記録産地の信憑性にもかかわり、結果として本書全体の信頼性を著しく損なうものとなっているのは残念なことである。現実的な対応として、本書の著者らは少なくとも付図に関する正誤表を添付するか、web上に公表して訂正すべきである。

2) コクロシテムシ属の「新種」について

本書70頁（図36）には、コクロシテムシ属の1種が2009年に発表された「新種」として掲載されている。このみ英文で記述されたダイアグノシスによれば、この種はコモクロシテムシに似ているが、翅鞘の帯紋が小楯板に届かず、雄交尾器はより太いことで区別されるという。まず、学名の有効性について述べる。この学名は、李珣閩氏が東北林業大学に提出した修士論文中で命名したものの引用である。したがって、本書で掲げられている学名に続く著者名は李景科氏ではない。この論文は、何故李珣閩氏が本書の共著者の1人にならないのかは不明だが、本書の底本ともいべき論文である。しかしながら、出版はされ

ていないので、本書の記載がこの「新種」の原記載となるであろう。にもかかわらず、本書では基準標本が固定されていない(李 [2009]には変則的ながら固定されている)ので無効と判断せざるを得ない。次に、この「新種」の実在性について述べる。本書の著者らは正副いずれの「基準標本」をも検することができず、「基準産地」から得られた標本を図示したとのことである(李景科, 私信)。掲載された写真を見る限りでは、翅鞘の帯紋の形状以外にコモクロシデムシとの差異は認められない。

李 [2009]に付録として掲げられた図版中の写真は不鮮明で判定は不可能であった。しかし、両種の雄交尾器の図を比較すると若干の差異が認められる。今後、帯紋と雄交尾器の差異がコモクロシデムシの個体変異の範疇に入るものなのか、あるいは鑑別形質となり得るものなのかどうかを、より詳細に検討する必要があると思われる。

3) ヒロオビモンシデムシと *Nicrophorus praedator* について

ヒロオビモンシデムシ *Nicrophorus investigator* Zetterstedt には、分布が広いこともあり、多くの異名がある。日本では Lewis (1887) が記載した *Nicrophorus latefasciatus* を *investigator* の亜種と認めて、*Nicrophorus investigator latefasciatus* として広く使用されてきた。一方、*Nicrophorus puraedator* Reitter は沿海州と日本を基準産地にして記載されたものである。Sikes [2003] は、可能な限りの基準標本を調査し、それに先立つ Sikes et al. (2002) の中で、*N. latefasciatus* と *N. puraedator* 他を *N. investigator* の同種異名としている。その後の分子分析を含めた検討 (Sikes et al., 2008) においても、*N. investigator* = *N. puraedator* の扱いは支持されたので、これは妥当な処置だと思われる。ところが本書では、Sikes et al. (2002) が参考文献に掲げられているにもかかわらず、これら2種がコメントなしにそれぞれ別種として掲げられている。

問題種間の異同において見解を異にする扱いが現れることは珍しいことではないし、それが研究の進展に寄与することもありえる。ただし論拠が添えられている場合である。本書の著者らも、双

方を別種として掲載するならば、やはり何らかのコメントを付記すべきであったと思う。

上記以外の掲載種の中で、*Nicrophorus ussuriensis* Portevin, *Aclypea daurica* Gebler とモモブトシデムシについては、この地域に生息していても不自然ではないが、付図と図説明が一致しないのはもちろん、他にそれらと判定できる図もないことから誤同定の可能性が高く、当面本書の分布記録の引用を避けた方が無難である。

中国東北部という広大な地域のシデムシ相の解明は、本書の出版によってもほんの僅か進展したにすぎず、むしろ要らぬ問題をさらに惹起したことになるのかもしれない。しかし、李 [2009] をはじめとした研究が行われていることは事実であるし、若干ではあるが追加調査を行い、本書を上梓した著者らの多少の努力については認められるべきであろう。

文末ではあるが、筆者の要望を受け、李珏闻氏による修士論文(李 [2009])を恵送された李景科氏に御礼申し上げる。

引用文献

- Lewis, G., 1887. A list of the Japanese Silphidae. *Ann. Mag. nat. Hist.*, 5 (20): 338–342.
- 李 珏闻 [Li Juewen] [2009] 东北地区埋葬甲科分类研究. 48 pp. 东北林业大学 硕士论文.
- Mazockhin-Porshnyakov, G. A., 1953. Necrophorini (Coleoptera) of Northeast China. *Zool. Zhur., Moskva*, 32: 235–237. (In Russian.)
- 森 為三・趙 福成, 1938. 満州国の埋葬虫科目録. *動物学雑誌*, 50: 329–334.
- Sikes, D. S. [2003] A revision of the subfamily Nicrophorinae Kirby (Insecta: Coleoptera: Silphidae). Ph.D. Dissertation, Univ. Connecticut. 333 pp. ProQuest Information & Learning Co., MI. [+ CD-ROM]
- Sikes, D. S., R. B. Madge, & A. F. Newton, 2002. A catalog of the Nicrophorinae (Coleoptera: Silphidae) of the world. *Zootaxa*, (65): 1–304.
- Sikes, D. S., S. M. Vamosi, S. T. Trombo, M. Ricketts, & C. Venables, 2008. Molecular systematics and biogeography of *Nicrophorus* in part—the investigator species group (Coleoptera: Silphidae) using mixture model MCMC. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, 48: 646–666.

(西川正明)